

## 令和2年度 第2回 社会教育委員会 会議録

日 時 令和2年8月17日（月）午前10時～正午  
場 所 豊明市役所 新館1階 会議室4・5  
出席者 橋本委員、緒方委員、青木委員、近藤委員、堀川委員、内田委員、  
 弼委員、古川委員  
欠席者 奥村委員、生涯学習課長補佐  
事務局 教育部長、生涯学習課長、図書館長、生涯学習担当係長、担当  
傍聴人 なし

### 3 議題

(1) 第2次とよあけ生涯学習アクションプランの検証結果について  
事務局より説明。

#### 【質疑等】

(委員)

第2次アクションプランの検証結果として特徴的なものを教えてください。

(事務局)

「とよあけ市民大学ひまわり」、「介護予防教室」、「地域総合型スポーツクラブ」など、令和2年度目標値に対して実績値が令和元年度時点で上回っている事業があります。また、指定管理者の導入による廃止などこの5年間における各事業の変化などをみることができるようになっております。

(委員)

介護予防教室について、平成27年度現状値に対して令和元年度実績が大きく伸びていて、民生委員活動などを通して受講者が多くなっている状況を把握している。その影響もあって、受講をためらう人もいるようです。また、高齢化率が上昇していることもあり、今後、受講者数の枠を増やすようなことは検討していただく余地はあるのでしょうか。

(事務局)

まちかど運動教室や健康マージャンについては、人気の高い事業との認識である旨の話は担当職員より聞いております。

第3次アクションプランについては、介護予防教室の各事業中でも「長寿の学び場」という事業を生涯学習の考え方に適しているとの観点からピックアップして掲載しております。

(委員)

健康マージャン等の事業は、県からも注目されている事業なので、みなさんが望む時に行きたいという希望を却下するのではなく、やりたいと思う時にやれる環境づくりを念頭に計画を進めていっていただきたいと思います。

(委員)

とよあけ市民大学ひまわりについて、現状報告及び今後の展望についてお話しただく。

- ・前期・後期でそれぞれ1, 300人程度が参加
- ・参加者のほとんどが満足との回答をしている
- ・講師はプロ顔負けの方々ばかり
- ・年々講座内容も充実している
- ・今後も継続していきたいので、そのための世代交代などを進めていきたい

(委員)

3点指摘をさせていただきます。

1点目として「小学生の生きる力の育み」についてですが、小学生にのみ力点が置かれているが、これからの将来を担っていく小学生・中学生をどのように育てていくかという観点をもって計画等を定めていってほしいと思います。育みという言葉だけでまとめるのではなく、子どもたちを育てていくためには地域の子ども会、PTA、自治会など幼少期から高齢期まで縦の関わりを持つことで生きる力は育まれていくと思うので縦・横の関係をつないでいくような観点で計画を作っていただきたいと思います。

2点目は、検証報告書について検証の結果報告のみに終わっているように感じます。検証によって見つけた課題とそれらに対する今後の対応を記した検証報告書でないと未完成の物で終わってしまっているように思います。

3点目として、市民交流センターの開設とあるが、外国籍の子どもたちの指導などについても今後は考えていって欲しいと思います。

(事務局)

子どもたちの生きる力については、総合計画にも掲げていて縦割りにならないように政策を進めています。自治会やPTAに子どもたちがどのように関わっていくかという点で大きな課題があり、親が町内会に入らなくなっている現状があります。親が町内会に入らないことで、子どもたちが自治会等に参加する機会が減ってしまっています。学校としては、協同の学びを通して生きる力を育てていく取り組みを行っているが、視点を外に向けると横軸が弱いと感じています。

(委員)

ナガバノイシモチソウや桶狭間をもっと有効に活用する方法を考えて、PR等も積極的に行って欲しいと思います。子どもたちが興味関心を持ち、その場に行きたくくなるようなPRをしてほしいと思いますし、市内にとどまらず、市外からも見学者が増えるように取り組んでもらいたいと思います。

また、これらのものを豊明市の誇りとして残していけるように保護等にも力を入れていって欲しいと思います。

(事務局)

広報紙やホームページなどの媒体を通してPRはしているところですが、まだまだ不十分でやれることもあるとの認識を持っております。

今後は様々なところにターゲットを当てていきながら、文化的な遺産を多くの方々に知っていただけるように努力をしていきたいと思っています。

(委員)

市のマイクロバスを出すなどして、中学校区ごとに見学できる機会を設けるなどの方法を検討していくことで参加者の増加を見込めるのではないかと思います。

(2) 第3次とよあけ生涯学習アクションプラン基本目標及び基本方針について  
事務局より説明。

【質疑等】

(委員)

コロナ禍により、地域で活動されている方々の発表の場が失われている状況があります(地域のお祭りの中止など)。そのような方々が活動を発表できるような場を検討していますか。

(事務局)

コロナ禍においては、新しいことを始めることは難しいと考えています。生涯学習課の事業について、前半は、講座や催しなどを中止または延期をしてきましたが、後半については、この状況でも実施できる方法を検討した上で実施していく予定です。

今後は、学んだことを活かせる場を無くすのではなく継続していけるように少しずつ事業を元に戻していきたいと考えています。

(委員)

このような状況でも、発表の場があることは生きがいにもつながると思いますので、市民の生涯学習が輝けるものになるためにも場の提供は継続して続けて欲しいと思います。

(委員)

第3次アクションプランと関連する各課管理の計画があるかと思います。各計画が第3次アクションプランのどの部分をカバーしているかなどを分かりやすく示した方が良いのではと思います。施策事業を見ただけだとどのように関連しているかわかりづらいものがあるように感じます。

(事務局)

各計画との関連性や整合性については、確認をさせていただいており、その上で提出された施策事業なので担当部署の意見を尊重したいと考えておりますが、今一度、関連性等について確認を行いたいと思います。

(委員)

資料2基本方針1について、「年齢、国籍、障がいの有無に関わらず」との文言が第3次アクションプランでは新しく追加されており、このような視点持って作成されていることに対して好感を持ちました。

(3) 第3次とよあけ生涯学習アクションプラン素案について  
事務局より説明。

**【質疑等】**

(委員)

令和2年4月に市指定史跡になったとのことなので、住所などの基本情報を記載していただきたいと思います。市の指定史跡になった点について、広報紙等でPRはされていますか。

また、ページ番号の位置が分かりづらいつ感じました。

(事務局)

市指定史跡になった旨の報告については、令和2年6月1日号広報紙にてお知らせしております。

また、史跡の基本情報及びページ番号の位置については修正を行いたいと思います。

(委員)

史跡等については、一度のみでなく何度もPRをしていただきたいと思います。方法についてもホームページだけでは、情報を取得できない方もいらっしゃるのだからの方々への対応や市外への発信も検討しながら、豊明の誇りである史跡やナガバノイシモチソウなどのPRを実施していただきたいと思います。

(委員)

基本方針に沿って進められている中で、第2次と比べて施策事業の再編集を実施されているようですが、廃止・新規、再編成されている項目について説明をお願いいたします。

(事務局)

廃止・新規、再編成について説明。

(委員)

豊明市として人生100年時代をどのように捉えているのかが不明確であると感じます。課題と今後の対応が明確になっていれば計画が明瞭化されて良いものになるかと思うので、工夫をして欲しいと思います。

(委員)

コーディネーショントレーニングとは、どの部署が担当しているどのような事業でしょうか。

(事務局)

担当部署は、生涯学習課のスポーツ係です。事業内容としては、幼少期から身体を動かすことで運動神経の向上などを図る事業になります。運動のきっかけ作りとして、講師に依頼して福祉体育館で指定管理者が実施しています。

(委員)

募集方法はどのようになっていますか。

(事務局)

他の教室と同様にホームページや広報紙、福祉体育館での配布などを通して告知しております。

(委員)

運動能力については、幼いころから動いていることが大切ではないかと感じていて、基本的な運動能力を子どもたちが身に付けて欲しいと感じています。

(4) その他

(委員)

広報紙やホームページは、必要があった時しか見ることはないと感じています。市民大学では、様々な講座を実施しており、講座の場でも良いし、事務所でもPRなどの協力をする事ができるので、市民大学を利用してください。協力できることはやらせていただくので、お互いに協力してやっていくことができたらと考えています。

(委員)

コロナ禍においては、その都度判断しなければならないものもあるかと思うが、このタイミングで事業の統廃合など取捨選択をしていく良い機会と捉えて今後の事業展開等を考えていただくと良いかと思えます。

(委員)

職場体験については、市内だけではなく市外へ体験に行くこともあります。保育園や飲食店を体験先に選ぶ生徒もいるが、コロナ禍ではやれないと判断し、今年度は中止としています。職場体験との関連で、マナー講座を職場体験前に実施しているが、

この講座は生徒の人生観を大きく変えることにつながっています。人に言われてから動いていたこれまでの生き方から、言われる前に動かなければならないとの意識の变革がマナー講座を通して得られています。今年度は、職場体験は中止となっているがマナー講座だけは実施していく予定です。

(委員)

PRについて、情報の発信源としてSNSが大切だと思うが、豊明市の状況はどのようなになっているのでしょうか。

(事務局)

各種公式SNS (LINE、Twitter、Instagram、Facebook、YouTube) を整備しております。

(委員)

のぶながくんをイベントの会場に連れていくなどしてPRする方法も若い層には有効ではないかと感じました。

#### 4 報告

(1) 豊明市立図書館栄分室の閉室について

図書館長より説明。